

研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

申請番号：

試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

・研究課題名：胆膵疾患に対する内視鏡的逆行性胆膵管造影検査の有用性及び安全性の検討

・目的：内視鏡的逆行性胆膵管造影検査(Endoscopic retrograde cholangiopancreatography; ERCP)は、胆道疾患および膵疾患の精査加療において必要不可欠な検査である。本法は、内視鏡を用いて経十二指腸乳頭的に胆管もしくは膵管にアプローチを行い、各々の管にカテーテルを深部挿管し、診断のために造影や組織検査、治療のためには各種デバイスを用いて対処（乳頭括約筋切開、胆管閉塞に対するステント留置、胆管結石に対する内視鏡的採石術など）を行うものである。ERCP関連手技は生理的ルートを用いた胆道疾患および膵疾患に対する精査加療を行う方法であり、その有用性はすでに認知されてきている。一方で、ERCP関連手技を実施するにあたっては、胆管や膵管への深部挿管、乳頭処置、ステント留置、結石除去など、超えるべき種々のハードルが存在する。さらに、偶発症として急性膵炎や出血、穿孔などを一定の確率で来し、特に急性膵炎は重症化した場合には生命に関わる場合があることから、より有用で安全なERCP関連手技の確立が求められている。ERCP関連手技について検討し、より有用で安全なERCP関連手技を確立するため、日常臨床の範囲内で行われたERCP関連手技のデータを集積する。

- ・研究期間：IRB承認日～2026年3月31日
- ・研究対象：2013年7月1日～2025年3月31日

利用し、又は提供する試料・情報の項目

：(1)患者背景、(2)十二指腸乳頭部の形態、(3)深部挿管方法、(4)深部挿管成功率、(5)乳頭処置、(6)組織採取法、(7)正診率、(8)結石除去法、(9)結石除去完遂率、(10)ステント種類および留置形態、(11)ドレナージ成功率、(12)使用デバイス、(13)偶発症

利用する者の範囲

：

消化器内科	医師	講師	藤田 曜
消化器内科	医師	教授	良沢 昭銘
消化器内科	医師	教授	水出 雅文
消化器内科	医師	講師	谷坂 優樹
消化器内科	医師	助教	小川 智也
消化器内科	医師	助教	勝田 景統

消化器内科	医師	助教	齊藤 陽一
消化器内科	医師	助教	宮口 和也

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

: 埼玉医科大学国際医療センター 消化器内科 講師 藤田 曜